

介護人材の確保と離職防止を目指し、同法人複数のデイサービスが業務改善・介護負担軽減をスタート。

介護職員の高年齢化とその結果により生じた若手職員への業務負担の偏在により、人材の確保・定着が一時困難に。現場職員の声を元にした業務改善や介護負担軽減により、働きやすく・働き続けられる職場に変わりつつある取り組みとは。

【取り組みのポイント】

- 豊岡市社会福祉協議会では、「介護・福祉人材の職場定着計画」を策定している。その一環として同法人の4つのデイサービスセンターの管理者・看護師からなるノーリフティングケア導入検討会にて、介護職員・利用者の双方にとって負担の少ないケアを提供するための方策を検討している
- 「現場職員から困り事を聞く」、「まずはできることから改善していく」、「本当に使えるものを導入する」をキーワードに取り組みを推進。4つのデイサービスセンターが協働することの相乗効果は大きく、効果のあった取り組みを共有したり、1つのデイサービス単独では難しい福祉機器のデモや試用を実現させている
- 各現場でのデモや試用を踏まえ、負担軽減に効果が期待できる物や福祉機器については導入のための予算化を計画的に行っている

職員の高年齢化と利用者の介護度の重度化に伴い、業務負担が増加。若手職員に重労働が偏り、離職の要因に。

職員の高年齢化と利用者の重度化が進み、若手職員に移乗介助等の重労働が偏ってしまうことがあった。その結果、入職後短い期間で離職し、現場職員の負担が更に増えるという悪循環が生じていた。

この悪循環から抜け出すため、ノーリフティングケアの推進等により、誰もが働きやすい環境づくりが必要と考え、介護・福祉人材の職場定着計画を策定。

法人内の事業所管理者会議の中でこの計画について説明し、各管理者から現場職員へ業務改善の必要性の理解を促した。

業務改善を進める体制・組織づくり

業務改善の取り組みを具体的かつ計画的に進めるため、法人内の4つのデイサービスの管理者・看護師

からなる「ノーリフティングケア導入検討会（以下、「検討会」と言う。）」を立ち上げ、取り組みを推進する体制を作った。

検討会：現場の職員から困りごと（仕事の負担）を聞くことからスタート

検討会の主な役割は、①課題等の現状把握、②負担軽減に資する備品・福祉機器等の体験と検証、③改善策の定着に向けた演習・研修、④備品・福祉機器導入の情報収集・予算化となっている。

課題等の現状把握は、4つのデイサービスがそれぞれ独自（アンケート・KJ法※・直接聞き取り等）に職員からの意見を集約し、各事業所での負担が大きい仕事内容を整理・対策を検討した。

※アイデアの言語化と可視化を通じて分析を効果的に行う手法。

できることから改善していく

業務改善は移乗用リフトやICT関連機器を導入することではなく、それぞれのデイサービスで職員が困っていることの中から、小さくともできることからスタートさせていた（下表に取組み一部掲載）。

負担の大きい仕事内容	実際にした対策
レクリエーションを行うための場面転換で重い机を持ち運ぶのが負担	机の足にキャスターを取り付けて移動を容易にする 机の移動が不要なレク内容を検討
おむつを捨てるゴミ箱の蓋を開ける時に屈むのが負担	ペダルで蓋が開くゴミ箱に変更。屈まずに行う
配膳台が低く、屈むのが大変	配膳台を高くする。背の高い配膳台を新たに準備する
しゃがみこんで行う介助（足を洗う、靴下を履かせる等）が負担	背もたれ付きの椅子に変更することで利用者の座位姿勢を安定させ、利用者自身にして貰うようにした
利用者がテーブル席へ座る・立つ時、介助で椅子ごと利用者の向きを変えるのが負担	利用者自身で行って貰う
ねたきり利用者のベッド上の移動、ストレッチャーへの移乗が負担	スライディングシート、移乗用ボードを使う

Message

職員の声から業務改善に繋がると職員のモチベーションも上がる。デイサービス同士、他の機関と繋がって取り組むことも大切。

職員の意見から始まり、その結果、業務が改善されたものは、たとえ小さな困りごとであったとしても現場のモチベーション向上に繋がると思っています。取り組みを続けるには、他事業所の取り組みや新しい福祉機器のことなど色々な情報が必要です。法人内外の他事業所との連携を深めながら取り組みを進めていきたいです。

<問い合わせ先> 社会福祉法人 豊岡社会福祉協議会 在宅福祉課
豊岡市城南町 23-6 豊岡健康福祉センター内 1 階 TEL:0796-23-2573

これらの対策と成果は検討会で共有され、必要に応じて物品の共有もしながら、お互いの工夫を取り入れるようにされている。

職員と試してみて、使ってみて、職員が「使える」と思ったものが定着する

負担軽減策には、福祉用具の導入が必要なものがある。そのため、新たに用具の使い方や介助方法を学ぶ必要も出てきた。

検討会のメンバーは各デイサービスの職員に業務時間内や営業前後のミーティングの時間を活用し、極力短い時間で使い方の練習を重ねている。職員自身が「この用具は使える」と感じるようになるにつれ、定着も進んでいるようである。

本当に使えるものは、予算化・購入へ

現在、検討会での協議のもと、必要とされる台数を計上し、電動ベッド購入の予算化をしているところ。

また、移乗用リフトについては外部の研修会等へ参加し、情報収集を行っている。今後はデモや試用結果を踏まえ、移乗用リフトの導入も検討されており、取り組みの深化と拡がりを見せている。

